[2025年度 環境保全報告書]

不二製油㈱神戸工場

1. 重点取り組み目標・計画に係る報告

◎省エネルギー他：燃料・電力・削減、節水、廃棄物削減

項目	単位	2013(基準年)	原単位	2021	原単位	2022	原単位
生産量	T/年	6,029		3,174		3,472	
燃料消費量	千Nm3/年	551	0.09	402	0.13	401	0.12
電力消費量	千Kwh/年	5,118	0.85	3,838	1.21	3,956	1.14
工業用水	m3/年	51,962	8.62	28,176	8.9	27,265	7.9
水道水	m3/年	7,734	1.28	5,009	1.6	5,352	1.5
給水合計	m3/年	59,696	9.90	33,185	10.5	32,617	9.4
廃棄量(不合格品)	T/年	178	0.030	117	0.037	118	0.034

項目	単位	2023	原単位	2024	原単位	2025	原単位
生産量	T/年	3,114		3,027		2,465	
燃料消費量	千Nm3/年	378	0.12	371	0.12	266	0.11
電力消費量	千Kwh/年	3,785	1.22	3,662	1.21	2,901	1.18
工業用水	m3/年	23,661	7.6	24,720	8.17	18,310	7.43
水道水	m3/年	5,038	1.6	4,745	1.57	3,814	1.55
給水合計	m3/年	28,699	9.2	29,465	9.73	22,124	8.98
廃棄量(不合格品)	T/年	119	0.038	73	0.024	36	0.015

結果及び考察

(1)エネルギー関係

①電力：対24年度、原単位97.5%

2025年4月、薄あげ生産ライン終了に伴い生産数量は対24年81.4%と減少するが、固定ｴﾈﾙｷﾞｰ削減等(ｴｱｰｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ集約、冷凍倉庫温度見直しなど)の削減効果もあり対24年原単位は97.5%となる。

②燃料：対24年度、原単位91.7%

薄あげライン終了に伴い、蒸気(ガス)使用量大幅減。元々他のラインよりガス原単位が高かったこともあり、全体での原単位を引き下げる結果となる。

(2)給水関係

対24年度、原単位92.3%

燃料同様、薄あげラインでの水原単位が高かったため、ライン終了に伴い全体の原単位を引き下げる形となった。

(3)廃棄物関係(不合格品)

対24年度、原単位62.5%

こちらも薄あげライン終了に伴い、生地・不良品等の発生量が減少となり排出量減。

令和8年度については、環境ﾋﾞｼﾞｮﾝ2030を見据え、計画書に記載の省エネルギー実施・検討、節水対策の立案・実施、廃棄物の低減(有償化含め)項目を実現し改善に努める。

2. 公害防止対策に係る報告

◎大気汚染防止対策

排ガス分析結果基準値を満足しており、ボイラ運転上の問題は無い。

施設名：川崎IF-3000HGE型貫流ボイラ（公称3t/hr）

項　　目	基 準 値	測 定 値	
		2025年5月27日	2025年11月27日
硫黄酸化物	0.15（m3/h）	0.001（m3/h）未満	0.001（m3/h）未満
煤　煙	0.1 （g/Nm3）	0.002 (g/Nm3)未満	0.002 (g/Nm3)未満
窒素酸化物	150 （ppm）	30 （ppm）	25 （ppm）

＊測定分析記録の詳細は、添付資料－No1を参照願います。

◎水質汚濁防止（除害施設の適正運転）

毎月2回、自主的にサンプリングし外部専門業者にて分析測定実施。下表は代表値として抜粋記入。

排水水質分析結果基準値を満足しており、除外施設運転上の問題は無い。

項　　目	基 準 値	測 定 値	
		2025年5月12日	2025年11月7日
水素イオン濃度(PH)	5を超え9未満	6.8	7
生物化学的酸素要求量(BOD)	2,000 （mg/L)以下	390 （mgO/L）	420 （mgO/L）
浮遊物質(SS)	2,000 （mg/L)以下	150 （mg/L）	28 （mg/L）
ノルマルヘキサン抽出物含有量（動植物油脂類含有量）	150 （mg/L)以下	2.5 （mg/L）	0.9 （mg/L）
全窒素	1,200 （mg/L)以下	13 （mgN/L）	4.3 （mgN/L）
全リン	160 （mg/L)以下	0.97 （mgP/L）	0.19 （mgP/L）
よう素消費量	220 （mg/L)未満	11 （mgI/L）	8.9 （mgI/L）

＊測定分析記録（例）は、添付資料－No2を参照願います。

◎悪臭防止対策：苦情等の申し入れなく、結果は特に問題無し。

◎産業廃棄物対策：発生する産業廃棄物はマニュフェスト制度に則り処理しております。
廃棄物の排出量削減するためコンポスト（微生物処理）導入検討するが、油脂が多く処理できない。減容方法を乾燥減容化へ切替、検討継続中。

◎廃棄物の抑制・再利用：不良製品廃棄、及び雑金属引取り先変更に伴い、有価引取となり産廃低減。
2025年度もゼロエミッションは達成。

3. 地球温暖化対策に係る報告

ア. 2025年度における電気・燃料等の使用量、温室効果ガス排出量

活動の区分	燃料・焼却物等の種類	使用量等	単　位	単位発熱量(MJ)	排出係数 kg-CO2/MJ	排出量 kg-CO2	温暖化係数	合　計 (CO2換算)
燃料の使用	都市ガス	265,958	Nm3	45	0.0499	597,209	1	597,209
電気事業者から供給された電気の使用	一般電気事業者	2,901,172	kWh		0	0	1	0
合計						597,209		597,209

イ. 当該年度の計画達成状況

温室効果ガス	削減目標		排出量		削減率(%)	
	今年度(2025年度)	2026年度	基準年度(2013年度)	今年度(2025年度)	今年度(2025年度)	2026年度
二酸化炭素	1,000	800	3,433	597	82.6	76.7
合計	1,000	800	3,433	597	82.6	76.7

ウ. 目標達成のために講じた措置・対策の達成状況

分　野	項　目	削減目標	実施状況
エネルギーの使用の合理化	照明器具の蛍光灯器具からLED照明へ順次交換 老朽空調機の省エネタイプへの更新による節電効果 排水処理油水分離槽攪拌ブロアーの集約化による節電 ボイラ常用圧力変更(1.6⇒0.8Mpa)及び運転時間短縮による省エネ効果 製造工程急速フリーザー設備用冷凍機の起動時間短縮による節電効果 エアーコンプレッサー台数制御から運転台数の見直しによる節電効果	施策による原油換算量20kL/年の削減	目標達成。 施策による省エネルギー量 ▲60.8kL/年

4. 公害防止対策、地球温暖化対策以外の環境保全に係る計画と結果

分　野	項　　目	2025年度目標	結　　果
廃棄物の適正処理・減量再資源化	産業廃棄物の削減	施策による絶対量 20ｔ/年低減	目標達成。 雑金属・不良製品の有償化引取、 自社分別の徹底による産廃削減、 排水処理流入水の低減による汚泥発生量の抑制、 前年度発生した設備・品質ロスによる廃棄物発生原因を改善したことによる類似廃棄物の抑制等 産業廃棄物排出低減効果▲62.5t/年
	空缶・空瓶・紙等の分別回収		徹　底
	コピー用紙の使用削減		①裏紙使用の徹底（メモ用紙化） ②会議資料のPC化⇒一部実施
	資源リサイクル	再資源化率99.8% 以上	再資源化率100%
事業所等で再生製品等の使用	グリーン購入の実施 再生紙の使用促進		徹　底
再生可能ｴﾈﾙｷﾞｰ導入の推進	グリーン電力の購入	購入電力100%	2022年10月より、購入電力100%グリーン電力へ 移管
従業員教育	ISO14000活動/安全衛生事業計画の推進		内部監査/ISO教育/省エネ勉強会/安全教育
地域社会への参画	工場周辺の清掃	12回／年	12回／年
	兵庫運河を美しくする会への社員参加	2回／年	2回／年